

につせい農事にゆーす

(第461回) 日星コーポレーション株式会社

アグロ部 (054-263-2860)

今年は4月上旬に昼夜の温度差により気温が高く経過したため、冬季の低温、乾燥で遅れていた桜の開花や作物の生育などは平年並みになりました。茶の生育は3月は前年に比べ遅かったようですが（特に早生品種で）、4月からの気温の上昇に伴い生育が回復し、今年の摘採時期は平年並みの4月下旬から5月上旬のゴールデンウィークの頃と予想されます。一方温州みかんの初芽期は平年並～やや早かったものの、開花始期は平年より1日ほど遅い予想です（品種：青島）。今後も気温は高めに推移する予想のため、農作物の生育は早まるとともに病害虫の発生も例年に比べ早まることが予想されます。農作物の生育状況をよく観察して、防除時期を逸さないよう適期防除に努めましょう。水稲、かんきつ、茶における5月の防除作業を掲載しましたので、参考にして下さい。

4月25日に発表された病害虫発生予察情報（5月予報）では、稲でヒメトビウンカがやや多、中晩柑類でかいよう病が多、果樹全般で果樹カメムシ類が多、茶でチャハマキ、カンザワハダニが多、チャノコカクモンハマキがやや多、の予報となっています。病害虫の発生に注意して、発生が広がる前に防除をしましょう。

令和7年4月22日

気象予報 '25-5

東海地方3か月気象予報

名古屋地方気象台

● 月別の予報

5月：天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

6月：平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は、高い確率が60%です。

7月：期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。

● 向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率 (%)

予報の 区分	気温			降水量		
	低い	平年並	高い	少ない	平年並	多い
3か月	10%	30%	60%	30%	30%	40%
5月	20%	40%	40%	30%	40%	30%
6月	10%	30%	60%	30%	30%	40%
7月	20%	30%	50%	30%	40%	30%

病害虫発生予察情報(5月予報)

令和 7 年 4 月 25 日
静岡県病害虫防除所長

1 予報概況

作物名	病害虫名	予報 (5月の県平均平年値)	予報の根拠
稲	縞葉枯病 (ヒメビウンカ)	縞葉枯病発生量: やや少 ヒメビウンカ発生量: やや多	昨年8月発生量 縞葉枯病: 少 (－) ヒメビウンカ: やや多 (+) 気象予報: 気温: 高い (+) 降水量: 並か少ない(±)
小麦	赤かび病	発生量: やや少	4月上旬発生量: 少(発生なし)(－) 気象予報: 気温: 高い (+) 降水量: 並か少ない(±)
ばれいしょ	疫病	発生量: 少 (発病株率 6.6%)	4月中旬発生量: 少(発生なし)(－) 気象予報: 気温: 高い (+) 降水量: 並か少ない(±)
	ジャガイモガ	発生量: 並 (寄生株率 0.3%)	4月中旬発生量: 並(発生なし)(±) 気象予報: 気温: 高い (+) 降水量: 並か少ない(±)
	アブラムシ類	発生量: 並 (寄生株率 19.4%)	4月中旬発生量: 少 (－) 気象予報: 気温: 高い (+) 降水量: 並か少ない(+)
温州みかん	かいよう病	発生量: やや少 (発病度 0.01)	4月上中旬発生量: 少 (－) 気象予報: 気温: 高い (+) 降水量: 並か少ない(±)
中晩柑類	かいよう病	発生量: 多 (発病度 0.04)	4月上中旬発生量: 多 (+) 気象予報: 気温: 高い (+) 降水量: 並か少ない(±)
キウイフルーツ	かいよう病	発生量: 少	4月中旬発生量: 少 (－) 気象予報: 気温: 高い (－) 降水量: 並か少ない(±)
果樹全般	果樹カメムシ類	発生量: 多	予察灯誘殺数: 多 (+) フェロモントラップ誘殺数: 多 (+) 越冬量: 多 (+) 気象予報: 気温: 高い (+) 降水量: 並か少ない(+)
茶	チャハマキ	発生量: 多 (寄生虫数0.6頭/1.25㎡) 発生時期: 並～やや早い	4月中旬発生量: やや多 (+) トラップ誘殺数: 多 (+) 気象予報: 気温: 高い (+) 降水量: 並か少ない(±)
	チャノコカクモンハマキ	発生量: やや多 (寄生虫数0.2頭/1.25㎡) 発生時期: 並～やや早い	4月発生量: やや少 (－) 防除員からの情報: やや多 (+) トラップ誘殺数: 多 (+) 気象予報: 気温: 高い (+) 降水量: 並か少ない(±)
	チャノキイロアザミウマ	発生量: 並 (叩き落とし虫数3.7頭/4か所)	4月中旬発生量: 少 (－) 気象予報: 気温: 高い (+) 降水量: 並か少ない(±)
	チャノミドリヒメヨコバイ	発生量: 並 (叩き落とし虫数1.9頭/4か所)	4月中旬発生量: 少 (－) 気象予報: 気温: 高い (+) 降水量: 並か少ない(±)
	カンザワハダニ	発生量: 多 (摘採面寄生葉率2.6%)	4月発生量: やや多 (+) ただし、中部、東部地域で多 (+) 天敵(カブリダニ類)発生量: 少 (+) 気象予報: 気温: 高い (+) 降水量: 並か少ない(±)
	クワシロカイガラムシ	発生量: やや少 発生時期: 並 (5月未調査)	4月発生量: 少 (－) 気象予報: 気温: 高い (+) 降水量: ほぼ平年並(±)

5月の防除作業 水稲、かんきつ、茶

<水 稲>

◎種子消毒

いもち病、ばか苗病、ごま葉枯病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病など重要病害の多くは、種子伝染性の病害です。これら病害の発生原因を元から絶つために、種子消毒は重要な作業となります。次のような段取りで行いましょう。

1 <塩水選>

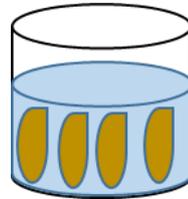
自家採種の種子を使う場合には必ず塩水選を行う。
塩水選後は十分水洗いし、水気を十分切る。

塩水選の比重と濃度(水100当たり)

	比重	塩
うるち	1.10	1.6kg
もち	1.08	0.8kg

2 <薬液浸漬>

糸状菌及び細菌による病害（いもち病、ばか苗病、ごま葉枯病、もみ枯細菌病、褐条病、苗立枯細菌病）とイネシンガレセンチュウの防除のために種粒を薬液に24時間浸漬する。浸漬時の水温は20℃前後を保ち、浸漬中は2～3回攪拌する。



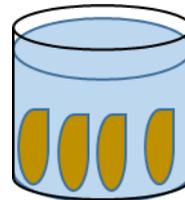
スホ°ルタックスターナ
SE(200倍)に
スミチオン乳剤
(1,000倍)
を加用

3 <風乾>

浸漬した種粒は薬剤を種粒の表面に固着させるため、日陰に広げ5～24時間風乾させる。

4 <浸種>

農薬の効果は、消毒後種子に浸透・付着した薬剤が浸種から催芽の間に種子中に浸透して持続的に効果を示すため、浸種開始から3日間は水交換はしない。
また種子の水洗いは厳禁。



停滞水（水温
20℃、容量比
1：2）に3～
4日浸漬する

*浸種時に機能性肥料ペンタキープ（5,000倍）を加えると出芽勢、根張り、均一性が向上する。

5 <催芽> ⇒ <播種>

◎育苗箱における防除

育苗箱施用剤の基本的な対象病害虫は、病害ではいもち病、害虫ではウンカ類とニカメイチュウです。紋枯病や白葉枯病、ごま葉枯病の多い地域ではこれらの病害にも有効な混合剤を、またイネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、コブノメイガの多い地域ではこれらの害虫に有効な混合剤を選択する。

上記害虫といもち病、白葉枯病、ごま葉枯病を対象とした育苗箱施用剤ではスタウトアレス箱粒剤やヨーバルUG箱粒剤、紋枯病にも有効な成分が加えられた育苗箱施用剤ではスタウトアレスモンガレス箱粒剤やヨーバルパワーEV箱粒剤を、は種時（覆土前）～移植当日に育苗箱あたり50g均一散布する。

田植え後は水田の水が直接河川に流れ出ないように7日間程度湛水状態を保ち、落水、かけ流しはしない。薬剤処理した苗は、田植え後、水不足で田面が露出すると薬害が出やすいので十分灌水しておく。

育苗箱施用剤の効果の持続期間は出穂期頃までのため、本田後期に多発するいもち病（穂いもち）やカメムシ類などに対しては本田散布剤による防除が必要となる。

<かんきつ>

5月は、温州みかん、中晩柑とも新梢生育期・開花期になる。この時期に雨が多いと灰色かび病やそうか病の発生が多くなる。灰色かび病に対しては、花弁落下期の初期に防除を行う。またそうか病は、春葉での発病が果実への感染源となるので、春葉の展葉初期の防除が重要となる。果実での感受性は落弁後が最も高いので、本病に弱い温州みかんではこの時期に防除が必要です。

防除薬剤には

- ・ナティーボフロアブル、ナリア WDG、ストロビードライフロアブル など

*いずれの剤も倍率は2,000倍、“灰色かび病”、“そうか病”に登録がある。

また開花期には、コアオハナムグリやケシクスイ類などの訪花昆虫が飛来し、吸蜜する際に幼果を傷つけるので、防除が必要。

- ・ロディー乳剤(2,000倍)、アルバリン顆粒水溶剤(2,000倍)、エクシレル SE(5,000倍) など

*いずれの剤も、“コアオハナムグリ”、“ケシクスイ類”に登録がある。



そうか病 いぼ型病斑



そうか病 そうか型病斑

< 茶 >

一番茶摘採後に防除する病害虫には、チャハマキ・チャノコカクモンハマキ、カンザワハダニ等がある。ハマキムシ類の防除は、地域の予察灯やフェロモントラップの誘殺数をもとに、誘殺ピークの7~10日後(若令幼虫期)を目安に防除する。テッパン液剤(1,000倍)又はマツチ乳剤(2,000倍)を散布する。

一番茶後はカンザワハダニの発生が増加するので、ハマキムシ類との同時防除でスターマイトフロアブル(2,000倍)またはミルベノック乳剤(1,000倍)を混用散布する。

一番茶生育期に雨が少なく乾燥すると、新芽にサビダニやホコリダニが発生することがある。その時は、スターマイトプラスフロアブル(1,000倍)を用いる。

5月後半になると、生育の早い茶園では二番茶が萌芽、開葉してくる。二番茶芽には、ウンカ、スリップス、チャノホソガ、炭疽病、もち病等が発生するので、被害が発生する前に防除を行う。害虫に対しては、ダントツ水溶剤(2,000倍)またはヨーバルフロアブル(2,500倍)を、病害に対してはオンリーワンフロアブル(2,000倍)またはダコニール1000(700倍)を混用散布する。

越冬期にクワシロカイガラムシの防除にプルートMCを散布していない茶園では5月中下旬にアプロードエースフロアブル(1,000倍)またはコルト顆粒水和剤(2,000倍)で防除する。温暖化に伴い、カイガラムシの発生が早まって来ている。病害虫防除所の発表する「ふ化最盛日の予測と防除適期の目安」によると、5月上旬に防除適期を迎える地域もある。茶園での虫の発育状況をよく観察し、適期防除に努める。



チャハマキ



カンザワハダニ

今月の防除(令和7年5月)

作物	時期	病害虫	使用薬剤	使用法	使用基準	備考
チャ 5月	一番茶 摘採後 上～下	ハマキムシ類	テッパン液剤 又は マッチ乳剤	1,000倍 2,000倍	3日-1 7日-1	テッパンはウンカ・スリップにも有効。
		カンザワハダニ	スターマイトフロアブル	2,000倍	7日-1	ミルベノック乳剤1000倍も可。サビダニ、 ホコリダニの発生時にはスターマイト プラスフロアブル1000倍も有効である。
	中～下	クワシロカイガラムシ (ブルートMC無散布 の場合)	アブロードエースフロアブル 又は コルト顆粒水和剤	1,000倍 2,000倍	14日-2 7日-2	展着剤のスカッシュ又はミックスパワー を加用すると付着性が高まる
	二番茶 萌芽～ 開葉期 中～下	ウンカ、スリップス チャノホソガ 炭疽病、もち病	ダントツ水溶剤 又は ヨーバルフロアブル オンリーワンフロアブル又は ダコニール1000	2,000倍 2,500倍 2,000倍 700倍	7日-1 7日-1 7日-2 10日-1	ヨーバルフロアブルはナガチャコガネ 成虫にも有効。 ナリアWGD2000倍(7日)も炭疽病、 もち病にも有効。
温州 みかん 5月	上～中	灰色かび病 及び そうか病	ナティーボフロアブル 又は ナリアWDG	2,000倍 2,000倍	前日-3 14日-3	灰色かび病は花卉落下期の初期に 防除する。ストロビードライフロアブル 2000倍(14日)も両病害に有効。
	下	コアオハナムグリ 及びケシキスイ	ロディー乳剤	2,000倍	7日-4	ミツバチへの影響に注意する。 ハマキムシ類、シャクトリムシ類にも 効果がある。
種もみ消毒						
水 稲	は種前	いもち・ばか苗病 ごま葉枯病 もみ枯細菌病 苗立枯細菌病	スポルタックスターナSE	200倍	1回	24時間浸漬後、5～24時間風乾す る。その後、浸種・催芽処理を行い、 播種する。浸種時にペンタキープ(5000倍)を 加えると、出芽勢、根張り、均一性が向上。
		シンガラセンチュウ	スミチオン乳剤	1,000倍	1回	スポルタックスターナSEに加用する。
育苗用土への薬剤混和						
は種時	苗立枯病 (フザリウム菌、 ピシウム菌) (リゾプス菌)	タチガレエースM液剤	500～ 1,000倍	500～ 1,000ml/箱	は種時に育苗箱の床土に灌注する。	
		ダコニール1000	500～ 1,000倍	500～ 1,000ml/箱		
田植え前の育苗箱施用薬剤(病害虫対象)						
田植前	使用方法・病害虫名		薬剤名		注意事項	
	農薬の育苗箱施用 は種時(覆土前)～移植当日、1箱当たり 50gを施用する。 対象害虫: イネミズゾウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ 他 対象病害: いもち病 紋枯病		害虫といもち病 スタウトアレス箱粒剤 又は ヨーバルUG箱粒剤 害虫といもち・紋枯病 スタウトアレスモンガレス 箱粒剤 ヨーバルパワーEV 箱粒剤		床土の水をよく切ってから、葉に露の ないときに施用する。 施用後は葉に付いている薬剤を払い 落とす。 軟弱苗や田植え後水が不足して田面 が露出する場合は薬害がでることが ある。 田植え後7日間程度 止水管理を する。	
田植え後の施用薬剤						
田植後	スクミリンゴガイ	ジャンボたにしくん	1～2kg	60日-2	田植え後7日間は湛水状態にして 落水やかけ流しはしない。	